

『バカと無知』 橘 玲 (たちばな あきら) 新潮社新書

杉並三田会 読書会 第178回 担当 遠藤富士夫 令和5年5月26日

読書会メンバーとして、今回は3回目の担当ですが、第1回目担当時2016年3月はイギリス人から見た日本という内容で『日本社会入門』を選びました。当時気になっていた同年6月の英国国民投票の結果、よもやと思っていたものの、僅差でEU離脱が決まりました。以前、ロンドンの金融街で働いていた経験から、英国の強さはモノづくりより、金融をはじめとしてソフトパワーだと印象を持っていたので、これで大丈夫かと不安になりました。結果EU離脱により、金融中心地シティは現在競争力を失い寂れ、自動車メーカーも撤退を余儀なくされ、昨年は66年ぶりの低生産台数となり、現在では50%を超える国民がEU離脱は失敗だったと報じられています。

その数か月後、2016年11月大統領選では、これも大方の予想に反し、トランプがクリントンを破る波乱が生まれました。英米それぞれに、階級、人種、学歴、資産などなど様々な格差が生じ、非エリート層がエリート層に反感を覚え、投票結果として番狂わせが生じたという意見が見られました。個人的には、本来の民主主義はマジョリティが最終的には合理的で客観的な判断に収れんするものと期待していました。しかし、ウクライナ侵攻による物価高もあり、ばら撒きを標ぼうするポピュリズムが今後は主役となり、来年のアメリカの大統領選では米国第一主義のトランプが復活するのか、日本を含めた自由と権利を守るはずの民主主義国家群がどうなっていくのか。更に、グローバル・サウスと呼ばれる第三国が台頭し、中国・ロシアを中心にした権威主義国家の横暴を世界はどうコントロールできるのか。

こんな疑問が頭の中で浮かびながら、今回の課題本探しに本屋さんに立ち寄りました。著者である橘玲への馴染みはあったものの、タイトルが余りにストレートで躊躇いがちにこの本をパラパラと見てみると、上述の民主主義に対する疑問に答えてくれるのではと期待しました。更に、SNSの問題含め様々な現代の事象に対する考え方にも興味を持ちました。以上からの各論として、この本の中で個人的に気になった主だった箇所を幾つかお伝えすると：

**PART I 正義は最大の娯楽である**

**1. なんでみんなこんなに怒っているのか**

明るい話題がない。良いニュースより悪いニュースに反応する。例えば殺人事件、件数減少も異様な事件で「体感治安」が悪化。脳は良い出来事より悪い出来事を記憶する。

アメリカの調査で従業員の3人に1人がパワハラ被害経験、同じ調査で逆に加害者経験はわずか2000人に1人。脳の仕様は「被害」を過大評価、「加害」を過小評価する。人間関係から歴史問題まで、紛糾の原因となる。

**2. 自分より優れた者は「損失」、劣った者は「報酬」**

「他人の不幸は蜜の味」 ネットニュースで一番アクセスは「芸能人と正義の話題」SNSで不道德な者がさらし者に。現代社会では正義が最大の「エンタテインメント」噂話の目的は自分より上位の者

を引きずり下ろすと同時に、下位の者を蔑んで自分をより目立たせる。自分より優れた者を蹴落とす、そこに「正義」を紛れ込ませ自分の行為を正当化。

### 3. なぜ世界は公正でなければならないのか

私たちはつねに「自分は正しい」という前提で生きている。「不正だ」と認定した者をよってたかって袋叩き……。脳は上方比較を損失、下方比較を報酬と捉えるから、高いものを「キャンセル」し、引きずり下ろすことには大きな快感がある。「最終的公正信念」戦略、「人間万事塞翁が馬」

### 4. キャンセルカルチャーという快感

過去の不適切な行為がネットで炎上し、公的な地位からのキャンセル（辞任）を求められることは、「キャンセルカルチャー」として欧米で問題になっている。過激化するカルチャーには3つの疑問：①過去の愚行は永遠に許されないのか？②対象が極めて恣意的なこと。③有名人を袋叩きにしても、問題の解決にも社会がよくなるわけでもない。

## PARTII バカと無知

### 5 バカは自分がバカであることに気づいていない

「能力の低い者は、そもそも自分が能力が低いことを正しく認知できていないのではないか」  
ダニング＝クルーガー効果 「バカの問題は、自分がバカであることに気づいていないことだ」

### 6 「知らないことを知らない」という二重の呪い

- ① 「知っていることを知っていること」
- ② 「知らないことを知っていること」
- ③ 「知らないことを知らないこと」=「二重の無知」「二重の呪い」
- ④ 「知っていることを知らない」

「認知能力の低い者が自分を過大評価する一方、認知能力の高い者が一貫して自分を過小評価している」（③と②から、必然的に自己を客観的に見られる。）

### 7 民主的な社会がうまくいかない不穏な理由

不穏な結論 ①集合知を実現するには、一定以上の能力をもつ者だけで、話し合い、人の判断より正しい選択ができる。②それが無理な場合は話し合いを諦めて、優秀な個人の判断に従った方がよい選択ができる。中国の「独裁」の方が高いパフォーマンスを達成？トランプ、BREXIT、移民問題など、欧米諸国がポピュリズムの嵐に翻弄されている間に、中国は一貫して高い経済成長……。バイデン政権の中国敵視政策の背景、米国理念の根幹のリベラルデモクラシーの敗北しつつあるとの恐怖！？

### 8 バカに引きずられるのを避けるのは？

ヒトは社会的動物なので、他者からの評価が自尊心や自己肯定感と結びつくように「設計」。脳は感覚器官からの入力进行处理し、ナイフで刺されることと、面と向かって批判されること（SNSで炎上すること）を区別できない。内心不安を抱えている者が会議の場にいると、自尊心を高めるために、話し合い最中に「マウンティング（優位性の誇示）」を行う。ワンマン企業が成功する（可能性

がある) のは「独裁者」の意思決定によって「バカに引きずられる」効果が避けられる? (例)  
Apple, Amazon, TESLA など

#### 9 バカと利口が熟議するという悲劇

どれほどバカげた主張でも、相手が自信たっぷりだと思わず信じてしまうのだ。SNS では、何が真実で何がフェイクか検証されないまま、些細な対立が収拾のつかない混乱へと拡大する。

#### 10 過剰敬語「よろしかったでしょうか」の秘密

SNS は、多くは匿名で意見の交換が行われ、自分は安心な場所にいながら、相手を一方的に攻撃できるという、言論空間のプラットフォームとしては最悪の環境。

#### 11 日本人の3人に1人は日本語が読めない?

アメリカでの「全米成人識字調査」での、学歴別の結果を見ると、「学歴(知能)格差」によって白人労働者層が仕事を失い、トランプ前大統領の岩盤支持層になった。

#### 12 投票率は低ければ低いほどいい

民主制では公正な選挙によって国民の正当な代表が選ばれるが、あらゆる調査で、有権者は投票に必要な基本的な知識を持っていない。有権者が「合理的に無知」だとすると、正しい選択は? 懸念は、2016年のイギリスのEU離脱を決めた国民投票とトランプ大統領誕生で現実化した。有権者の政治的無知こそが、ポピュリズムの力の源泉。

### PARTIII やっかいな自尊心

#### 14 皇族は「上級国民」

皇族の結婚問題、「国民の税金で食わせてもらっている」vs.「下級国民」不安定な身分とわずかな給料。経済格差が拡大すると、自分が虐げられていると感じる層が増え、あちこちで怨恨が噴出する。アメリカではトランプ現象を引き起こし、日本では「上級国民」批判。

#### 23 善意の名を借りたマウンティング

上から目線で「婉曲な支援」を受けた時の心理的苦痛が、下から目線の「あからさまな支援」とほぼ同じ。

#### 24 進化論的なフェミニズムへ

シリコンバレーの企業では、白人(ユダヤ人)、インド系、アジア系の従業員が人口に不釣り合いなほど多く、黒人やヒスパニックが少ない。世界で最もリベラルな方針を掲げ、男女平等を推進しながら、採用試験で選ばれるのが男ばかり・・・。

著者あとがき 「バカと無知の壁」を乗り越えて

徒党を組んで敵と対抗する一方で、表向きは協力するふりをしながら、裏では足を引っ張って、仲間を陥れて自分のステイタスを上げるという複雑な戦略を駆使・・・。

ヒトはあらゆることを陰謀論で解釈するようになった。ヒトはステイタス = 自尊心を守るためなら死に物狂いになる、「見たいものだけを見て、聞きたいことだけを聞く」